

科目名	家庭基礎	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科・1年1組 普通科・1年2組	
学 習 の 到達目標	1 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 2 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 3 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			教科書・副教材等	「高等学校 改訂版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる」 (第一学習社) 「家庭科ノート」 「調理実習ノート（基礎編）」 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)	
評 価						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技能		人の一生と家族・家庭生活及び福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。			・単元テスト ・定期考査	
思考・判断・表現		人の一生と家族・家庭生活及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。			・ノート・ワークシートへの記入状況 ・単元テスト ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、人の一生と家族・家庭生活及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫・創造し、実践しようとする態度を身に付けている。			・課題への取組状況 ・授業(実習)への取組状況	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	家庭科を学ぶみなさんへ		・高校での家庭科の学びやホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・生涯の生活設計や青年期の自立について学ぶ。 ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律について学び、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解を深める。 ・超高齢社会の現状、高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について学び、高齢者の生活支援に関する技能を身に付ける。 ・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について学ぶ。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について学ぶ。			期 末
	1 章 これからの生き方と家族					
	3 章 充実した生涯へ					
	2 章 次世代をはぐくむ					
	4 章 とともに生きる					
2 学 期	8 章 経済生活をつくる		・経済計画や消費行動、意思決定、環境について学び、環境に配慮して持続可能な社会を目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考える。 ・被服の機能や被服材料、被服管理、衣生活の文化について学び、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・食生活課題や栄養と食品、食品の選択と安全、食生活の計画と管理、調理の基礎について学ぶ。			期 末
	6 章 衣生活をつくる					
	5 章 食生活をつくる					
3 学 期	7 章 住生活をつくる		・調理実習を通して、基本的な調理技術を身に付ける。 ・住居の機能・住居と地域社会のかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。			学 年 末

科目名	生活実践	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科・2年1組（選択） 普通科・2年2組（実学コース）	
学 習 の 到達目標	1 衣・食・住生活、マナーなどについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 2 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 3 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			教科書 ・ 副教材 等	「最新 生活ハンドブック」 （第一学習社） 「家庭科ノート」 「調理実習ノート（基礎編）」 （愛媛県高等学校家庭科教育研究会編）	
評 価						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技能		衣・食・住生活、マナーなどに関する科学的・文化的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。			・定期考査 ・作品 ・技術検定	
思考・判断・表現		衣・食・住生活、マナーなどについて問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的・文化的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。			・定期考査 ・技術検定	
主体的に学習に取り組む態度		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築や生活文化の継承に向けて、衣・食・住生活、マナーなどについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫・創造し、実践しようとする態度を身に付けている。			・課題・技術検定への取組状況 ・授業(実習)への取組状況	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 自分を見つめる (1) 人生の目標と生活設計 (2) コンテスト出品計画 2 生活上の実践力を身に付ける (1) 食生活Ⅰ ◇調理実習①② ○食物調理技術検定3級		・ライフサイクルにおける青年期の役割を考え、生活設計（キャリアプランニング）を行う。 ・「家庭基礎」で学んだ内容を踏まえ、家庭科に関する各種コンテストへの応募を通して、技術力・表現力を高める。 ・栄養・食品・調理に関する知識・技術を身に付け、充実した食生活を営むことができるようにする。 ・技術検定（食物調理3級）に挑戦し、技術・思考力の向上を図る。			期末
2 学 期	(2) 衣生活 ◇被服製作 ○被服製作技術検定3級 (3) 住生活		・被服製作を通して、被服製作に関する基本的知識・技術を身に付け、充実した衣生活を営むことができるようにする。 ・技術検定（被服製作3級）に挑戦し、技術・思考力の向上を図る。 ・実習を通して家族の形態や暮らし方を想定した住居の平面計画・インテリア計画ができるようにする。			期末
3 学 期	(4) 食生活Ⅱ ◇調理実習③④ 3 生活上のマナーを身に付ける		・調理実習を通して、技術検定（食物料理2級）受検に対応できる技術向上を図る。 ・「マナー」の意味や必要性を理解し、生活上の基本的マナー（慶弔・食事・手紙・贈答・訪問等）を身に付ける。 ・茶道の体験を通して、礼儀や文化について理解し、もてなしの心を養う。			学年末

科目名	フード デザイン	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科・3年1組（選択）
学 習 の 到達目標	1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人・生活者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	「フードデザイン Food Challenge LIFE」 （教育図書） 「調理実習ノート（専門編）」 （愛媛県高等学校家庭科教育研究会編） 「最新 生活ハンドブック」 （第一学習社）
評 価					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、それらに係る技術を身に付けている。				・定期考査 ・技術検定
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人・生活者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。				・定期考査 ・技術検定
主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとする態度を身に付けている。				・課題・技術検定への取組状況 ・授業(実習)への取組状況
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	◇調理実習Ⅰ～Ⅲ 第4章 調理をしてみよう 第5章 各国料理と コーディネート 第1章 健康と食生活 ○食物調理技術検定2級		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・料理の目的、調理操作・調理器具の特徴を理解する。 ・代表的な料理（日本・西洋・中国）様式の特徴や献立、マナー・サービスについて理解する。 ・日常の食卓をはじめ、代表的な料理様式のテーブルコーディネートについて理解するとともに、食事のテーマに応じたテーブルコーディネートについて考える。 ・食事の意義と役割、食を取り巻く現状について理解し、食生活上の課題や工夫について考える。 ・技術検定（食物調理2級）に挑戦し、日常食の調理技術・思考力の向上を図る。		期 末
2 学 期	◇調理実習Ⅳ～Ⅶ 第2章 栄養素と食品 第3章 食品の選択と取り扱い		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・栄養、食品とその特徴、食事計画について理解を深める。 ・食品選択、食品衛生と安全について理解を深める。		期 末
3 学 期	◇調理実習Ⅷ 第6章 食育と食育推進活動		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・食育基本法・食育基本計画の趣旨、食文化について理解するとともに、食育課題や食文化の伝承についても考える。		実 施 な し

科目名	フード デザイン	単位数	2	学科・学年・学級	普通科・3年2組（実学コース）
学 習 の 到達目標	1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人・生活者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	「フードデザイン Food Challenge LIFE」 （教育図書） 「調理実習ノート（専門編）」 （愛媛県高等学校家庭科教育研究会編） 「最新 生活ハンドブック」 （第一学習社）
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、それらに係る技術を身に付けている。				・定期考査 ・技術検定
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人・生活者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。				・定期考査 ・技術検定
主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとする態度を身に付けている。				・課題・技術検定への取組状況 ・授業(実習)への取組状況
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	◇調理実習Ⅰ～Ⅲ 第4章 調理をしてみよう 第5章 各国料理と コーディネート 第2章 健康と食生活 ○食物調理技術検定2級		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・料理の目的、調理操作・調理器具の特徴を理解する。 ・代表的な料理（日本・西洋・中国）様式の特徴や献立、マナー・サービスについて理解する。 ・日常の食卓をはじめ、代表的な料理様式のテーブルコーディネートについて理解するとともに、食事のテーマに応じたテーブルコーディネートについて考える。 ・食事の意義と役割、食を取り巻く現状について理解し、食生活上の課題や工夫について考える。 ・技術検定（食物調理2級）に挑戦し、日常食の調理技術・思考力の向上を図る。		期 末
2 学 期	◇調理実習Ⅳ～Ⅶ 第2章 栄養素と食品 第3章 食品の選択と取り扱い ○食物調理技術検定準1級		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・栄養、食品とその特徴、食事計画について理解を深める。 ・食品選択、食品衛生と安全について理解を深める。 ・技術検定（食物調理2級）に挑戦し、技術（献立作成・調理）及び思考力の向上を図る。		期 末
3 学 期	◇調理実習Ⅷ 第6章 食育と食育推進活動		・実習を通して、調理技術・思考力の向上を図る。 ・食育基本法・食育基本計画の趣旨、食文化について理解するとともに、食育課題や食文化の伝承についても考える。		実 施 な し

科目名	保育基礎	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科・3年1組（選択） 普通科・3年2組（選択）
学 習 の 到達目標	1 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化についてなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	教科書・副教材等		「保育基礎 ようこそともに育ち合う保育の世界へ」 （教育図書）	
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識・技能	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、それらに係る技術を身に付けている。			・定期考査	
思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。			・ワークシートへの記入状況 ・定期考査 ・技術検定	
主体的に学習に取り組む態度	子どもの健やかな発達をめざして自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとする態度を身に付けている。			・課題・技術検定への取組状況 ・授業(実習)への取組状況	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	第1章 子どもの保育 第4章 子どもの福祉 第5章 子どもの文化（遊びと表現活動） ○保育技術検定3級	・保育の意義やその方法、保育の環境について、専門的な知識・技術を習得し、保育者としてのあるべき姿、適切な関わり方について考える。 ・児童観の変遷、児童福祉を保障するための法律や制度、施設の役割について理解する。 ・「遊び」が子どもの生活において最も重要なものであることを理解し、保育技術検定3級の受検を通して、子どもの遊びや表現活動の充実を図る技術を習得する。			期 末
2 学 期	第2章 子どもの発達 第3章 子どもの生活 ○保育技術検定（造形表現）2級	・子どもの発達の特性、乳幼児の発育と発達について理解し、子どもの健やかな発達のために保育者は何ができるのかを考える。 ・子どもの健康と生活、食事、衣服と寝具、健康と安全に関する専門的な知識・技術を習得し、保育者は、子どもの生活を支える適切な保育について考える。 ・子どもの衣生活・健康に関する実習を通して、保育現場における実践力を身に付ける。 ・保育技術検定2級に挑戦し、技術・思考力の向上を図る。			期 末
3 学 期	第5章 子どもの文化（子ども文化の意義と支える場）	・子どもの食生活に関する実習を通して、保育現場における実践力を身に付ける。 ・子どもの文化の意義・支える場について理解し、子どもの文化の現状と課題について考える。			実 施 な し